

静岡大学学生フォトコンテスト2023作品介绍

学生目線の静岡大学の魅力を広く発信することを目的として、Instagramを利用したフォトコンテストを開催しました。2023年の受賞作品の一部を紹介します！



その他の
受賞作品は
こちらから



グランプリ

「グランツぐんぐん」

人文社会科学部 石井 遥香 さん

大好きな選手達のカッコいい姿を写真に残せて、このような賞をいただけて本当に嬉しいです。前日の試合は大雨だったのですが、2日目は晴れてみんなで大会に向けて揃えたカラーアンダーが綺麗に映えました。練習前の合言葉「グランツぐんぐん」にかけて、今から試合が始まるドキドキ感と、みんなが試合を楽しんでいるワクワク感が伝わる写真だと思います。

学長賞

「最高到達点」

工学部 根本尚輝さん

浜松の街並みとキャンパスを一緒に収めた写真を撮りたいと考え、浜松キャンパスで一番高い建物である総合研究棟を撮影場所を選びました。天候にも恵まれ、明暗差のあるきれいな写真を撮ることができました。



広報戦略室長賞

「季節は変わっていくのに、この気持は同じまだ」

創造科学技術大学院
テードサナー チャナパットさん

毎日歩くこの道は、春から冬にかけて季節の移り変わりを感じることができ、写真を撮ると心が安らぎます。この場所の写真をしていると、何も変わらないものがないように、すべてのものは時間とともに変化していくのだと実感します。嫌なことがあっても、それは悪い人生ではなく、良いことが必ずあります。

広報学生委員会賞

「夢いっぱい」

総合科学技術研究科 K.W.さん

大きなプリンを前にして、後輩の笑顔が素敵だったので思わず撮影しました。普段は真面目に、時々わくわく感のある研究室の日常です。この写真を通して、幸せをお裾分けできればと思います。ちなみにプリンは美味しかったです!!



アンケートにご協力ください

静岡大学広報誌「SUCCESS」vol.31の誌面に関するWEBアンケートにご協力ください。抽選で10名様に静岡農場(静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター)で製造した和紅茶(1缶20g)をプレゼント!当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。



缶のラベルは農学部学生がデザインし、投票で選ばれた3作品です!



左記QRコードによりアクセスいただき、WEBにてご回答ください。
応募締切:2024年6月30日(日)

編集後記

今号では、育成ドラフト2位で広島東洋カープに入団した佐藤啓介さんを紹介しています。本学2人目のプロ野球選手の誕生に学内が祝福ムードに包まれ、今後の活躍に胸を膨らませています。ぜひ一緒に応援していただけると幸いです。



SUCCESS

静岡大学広報誌 サクセス

Shizuoka University
Current affairs &
Connective paper for
Every graduate
Student &
Staff

特集

地域で学び、地域とともに成長する

／静大の研究を実社会へ、世界へ



Spring 2024



大代地区のカフェ「天空茶屋」関連記事は1ページへ!

地域で学び、 地域とともに 成長する

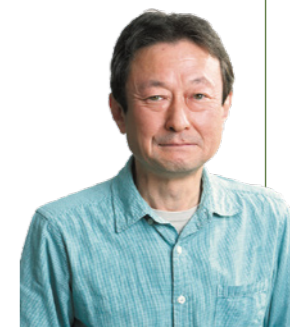


山々に囲まれた茶畑が一面に広がり、静岡のマチュピチュとも称される大代地区

静岡大学では「地域志向大学」を宣言し、地域との協働による課題解決を通して、地域社会の価値の創造と持続的な発展に貢献することを目指しています。地域と連携する授業や、地域の方との交流拠点、教育・研究の公開の場について特集します。

農業・農村の課題を体験を通して学ぶ農学部授業 「農業環境演習」

「農業環境演習」では、静岡市葵区北部梅ヶ島地区の中山間地域、大代地区に3年間訪問。学生は地区の方と一緒に農作業を行いながら、地区の状況をじっくりと自ら体験し理解します。そのうえで、地区の将来や存続のために学生ができることを考え、地区の方に相談しながら課題解決のためのチームに分かれ活動を行います。



渡邊 拓 農学部 准教授

中山間地域に入り、農作業などをしながら地区の魅力や課題に気づき、それらの維持や解決する能力に磨きをかけてほしいと思っています。将来、中山間地域で得た経験をもとに、様々な分野で活躍出来る人材になってほしいです。

茶産業の促進・景観維持のために

高齢化により耕作放棄される茶畑の発生を防ぐべく、収穫した茶葉の製茶、加工から販売までを手伝います。より多くの方に魅力が伝わるよう、パッケージの開発、大代で地元産の美味しいお茶を味わえる「天空茶屋」の開設、SNSによる発信強化など、地区の方とともに日々挑戦しています。



急傾斜地で機械化が困難な茶畑は作業が大変な一方、美しい景観の理由となっています。茶産業を維持することは地区の存続に直結しています。(右の写真は「天空茶屋」店内)

大代のライフラインを守るために

上水道がなく、川の上流から直接水を引き、「水みち」を通して分配している大代地区。取水口の落ち葉等のつまりや水源までの山道の崩落の点検・整備のほか、獣害による被害を防ぐ電柵の点検・整備を、地区の方と相談しながら実施しています。



水みちも電柵も険しい山での作業。人口減少・高齢化が施設維持の困難につながるため、学生の活動が継続の一助になればと考えています。

伊豆半島で教育機関、地域住民、企業や自治体などと連携 東部サテライト「三余塾」

静岡県東部地域における本学の教育・研究・産学連携の拠点として、伊豆市に2020年に設置。教職員が常駐し、「協働のパートナーを見つける」「学び」「情報を得る・仲間に出会う」という3つの「場」の機能を備えています。



伊豆未来デザインラボセミナー

月1回、伊豆の地域活性化に関心をもつ企業や団体、本学が、互いの取り組みを共有。様々なコラボレーションも生まれています。伊豆で活動する静大生が発表することも!



公開講座

教員による公開講座のほか、子どもたちに伊豆の自然に親しんでもらおうと、静大キャンパスミュージアムや学生が運営に関わり、野鳥観察会等を開催。



フィールドワークの実施

学生のフィールドワークの一環として、高校生向けにフォトグラメトリーを通じて点群データからオリジナル3Dモデルを作るワークショップを開催。



内山 智尋
未来社会デザイン機構 講師

伊豆半島は、高齢化が進む中での地域振興、防災対策など、研究・学びの観点が多く、教員の知見や大学生の活躍への期待も大きいです。一緒に伊豆半島で活動してみませんか?

日々更新中!
最新情報はこちら!
東部サテライトだより



この機会に、大学にいらっしやいませんか? 静大フェスタ&静大祭開催

年に一度、教育研究の成果や取り組みを「おもしろ実験・体験」「研究室ツアー」や展示などで地域の方々に紹介しています。研究者や学生たちから直接説明などが聞ける貴重な機会です。



2024年も11月に 静大祭(学生の課外活動が主体)と同時開催!

静岡キャンパス…キャンパスフェスタ、静大祭、農学祭
浜松キャンパス…テクノフェスタ、静大祭 in 浜松
開催日程は、静大フェスタサイトでご確認ください。

静大フェスタサイト



静大の研究を 実社会へ、世界へ 企業と大学を結ぶ！ イノベーション社会連携推進機構

静岡大学の教員や学生の研究力、教育力が、自治体や企業、地域の人々との連携により、大きな成果を生み出しています。本学の産学連携や起業支援の窓口として、両キャンパスに設置されているイノベーション社会連携推進機構の取り組みをご紹介します。

www.oisc.shizuoka.ac.jp



産学連携推進部門の部門長で弁理士の小嶋豊誠特任教授(左)と鈴木俊充特任教授



浜松キャンパス



静岡キャンパス

企業と大学をつなぐコンシェルジュがいます

静岡大学の研究シーズを伝える活動

展示会・説明会

- 大学見本市～イノベーションジャパン(2024年8月)
- JST新技術説明会(2024年2月8日/東京)
- ビジネスマッチングフェア in Hamamatsu(2024年7月)



本機構のWebサイト「情報発信」ページ

- 静岡大学産学連携研究シーズ集
- しずだい産学連携メールマガジン
- 研究者PICK UP など



技術相談を受けて最適な教員を紹介

大学の研究を地域や産業界に届けたい!

研究を研究で終わらせず、社会実装して地域に還元することは、知の拠点である国立大学の責務です。本学が有する専門性や知識を広く活用し、地域や産業界の課題を解決したいという思いで、産業界との連携を強化しています。



共同研究、受託研究、事業化の検討など

事例
S-Bridges株式会社
S-Bridges CTO
静岡大学工学部 佐野吉彦准教授

大学発スタートアップは、研究を自らの手で社会実装させる研究の能動的活動の一環であり、社会で求められる研究を直接肌で感じる刺激の多い活動だと思っています。

「素材のすべてを使い切る新技術で サーキュラーエコノミーを実現」

茶葉・茶殻を含む食品からタンパク質を抽出する技術とその製造工程の研究開発に取り組む静岡大学発のベンチャー企業。現在、静岡大学との共同研究によりCell Breaker&AI技術を活用し、タンパク質危機の解消、Co2削減、フードロス軽減による「循環経済の実現」を目指しています。

学生や教員の起業もサポートしています

起業・ビジネス人材育成ゼミ

「起業に関心がある」「自分のアイデアを形にしたい」「社会の課題に本気で取り組みたい」という学生を対象に、合宿を含む3か月間の講座をアイザワ証券株式会社のサポートにより行っています。静岡大学に限らず、県内の学生なら誰でも無料で参加できます。通常のゼミと異なり、単位はとれませんが、製品化に向けて具体的なプランを作成し、就職後に役立つビジネスセンスを身につけることができます。



小園 明璃さん
(グローバル共創科学部2年)

ゼミを通して起業のための知識を得られ、そこで出会った縁のおかげで起業を目指している方や実際の起業家など様々な方と触れ合えて、いい経験になっています。

学生の起業を応援!「しずはま起業部」

名古屋大を主幹とする東海地区20以上の大学が集まる、起業家教育のプラットフォーム「Tongali(トンガリ)」に静岡大学も参画しています。県内では、「しずはま起業部」が立ち上がり、県内外の学生と交流を深めています。



現在、静岡大学発ベンチャー企業は48社

静大発ベンチャー企業は、教員シーズを活用したり、起業・ビジネス人材育成講座のOBが起業したり、現在、48社となっています。実績としては、これまでに55社のスタートアップを支援してきました。



事例
株式会社Gab
代表取締役 山内萌斗

出し惜しみのない起業支援をしてくださったゼミ担当の先生方やスタッフの方々には感謝しきれません。皆様にはどうか恩返しができるよう邁進いたします!

「社会課題解決の敷居を極限まで下げる」

2018年静岡大学起業家プログラムEDGE-NEXTに参加し、シリコンバレー研修選抜メンバーに選ばれたことを機に、在学中に起業。エシカル(社会課題解決要素を含んだ取り組み)ブランドに特化した商品販売・グロース支援・ロールアップ事業を展開しています。

研究最前線

学術文化の継承と発展、
人類の「知」に貢献する



スポーツと地域社会の良好な関係性が模索される中で、中学校の部活動を学校と地域スポーツクラブが共同経営するなど、新たな連携・協働による経営の形が注目されています。

地域スポーツクラブの文化性と社会的効果

グローバル共創科学部
総合人間科学コース 准教授

村田 真一
MURATA Shinichi



教員ウェブサイト

近年、スポーツに親しむ人は増えていますが、住民によって運営されている地域スポーツクラブ(居住地域を中心に展開される「総合型地域スポーツクラブ」など)に加入・参加する人は多くありません。そこにどのような課題が潜んでいるのか、クラブマネージャーへの聞き取りやクラブ会員へのアンケート調査などを通じてクラブの運営実態などを明らかにしていきます。
私が研究するスポーツ経営学は、人々の豊かなスポーツ生活を実現するための組織的整備に関する理論や方法を開発する学問です。地域スポーツクラブが地域に及ぼす影響やその文化性と社会的効果を探っていきます。

情報学部 情報社会学科 教授

杉山 岳弘
SUGIYAMA Takahiro



教員ウェブサイト

昨今、観光客の誘致に、SNSの積極的な活用は必須となっています。本研究では、地方の観光協会が生成AIを用いたSNSで効果的かつ効率的に観光情報を発信する仕組みづくりを行っています。例えば、ブログに書いた観光情報を、本研究で開発したアプリに入力すると、数分で各SNSの発信に合った内容に変換する仕組みの構築などです。ただし、生成AIは現段階で正確性に不安があるため、ブログに掲載済の記事を基にし、投稿前に確認・修正することで誤情報の発信を防いでいます。将来的には、多言語への変換や、入力から投稿までの自動化などの改良を進めていきます。

生成AIを活用したSNSで観光情報を発信



県立大との共同研究で、館山寺温泉観光協会の情報発信を支援しています。家族向け、シニア向け、一人旅向けなど対象別に文章表現を設定できる機能などが喜ばれています。



暮らしに役立つ機能はないか、常に問いかけながら研究を進めています。私たちと一緒に自然界から新しい微生物の機能を見つけ出し、産業応用に結び付けていきましょう！

微生物の力で人々の暮らしを豊かにする

工学部 化学バイオ工学科 准教授

吉田 信行
YOSHIDA Nobuyuki



教員ウェブサイト

私は、身の回りにいる微生物がそれぞれに持つ独特な機能を産業や暮らしに活かす「応用微生物学」の研究をしています。株式会社大阪ソーダとの共同研究で、若返り効果で世界から注目されるニコチンアミドモノヌクレオチド(以下、NMN)を生産する乳酸菌を発見し、そのNMN乳酸菌がヒトの皮膚細胞のコラーゲンとヒアルロン酸の両成分を産生できる機能を持つこともわかりました。腸内環境の改善などに加え、化粧品原料や新たなニュートラシューティカルズ(科学的根拠を持った健康に有用な食品・飲料)としての展開が可能となり、求めやすい価格で製品化できるよう、開発を進めています。

理学部 地球科学科 助教

ルグラン ジュリアン
LEGRAND Julien



教員ウェブサイト

陸上植物の祖先が出現したのは、今から約4.7億年前。以来、植物の進化は、生態系の変化に大きな影響を与えてきました。私は、海底および陸上に堆積した地層から孢子・花粉などの微化石(ミリ~ミクロンサイズの化石)を抽出し、古環境や古気候の推定や植物の進化史について研究しています。この研究は、地質学、生物学、環境学など幅広い分野に応用できます。
最近では、北海道むかわ町で、恐竜の化石と同じ地層から採集した花粉を分析し、恐竜の生息年代を明らかにしました。植物と共産する動物化石や古土壌の解析により、陸上生態系の成立過程を包括的に理解できると考えています。

花粉から被子植物の起源や進化を探る



植物の化石には、その時代の情報が多く秘められています。花粉を分析して、中生代に地球生命圏の様相を一変させた被子植物の起源などの解明を目指しています。

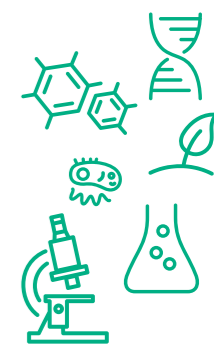
研究 PRESS RELEASE

研究成果を発表して報道されたものをご紹介します

2023年8月~2024年2月

- 田上陽介(農学部)「昆虫細胞内共生細菌を活用して害虫防除」
- 小山真人(防災総合センター)「東伊豆地域の隆起痕跡から過去のマグマ活動履歴を解明」
- 能見公博(工学部)「超小型衛星STARS-Xの完成発表」
- 河岸洋和・呉静(農学部)「キノコのfruiting liquidから新規物質の発見」
- 藤本圭佑(工学部)「世界最小電圧で光る青色有機ELの開発に成功」
- 弓削達郎(理学部)「加速電子と光子の時間相関電子顕微鏡を実現」
- 海老原孝雄(理学部)「超伝導になる電子のカタチが見えた!量子ビームで描く次世代材料の設計図」
- 江草智弘・今泉文寿(農学部)「森林伐採は斜面崩壊の増加を通じて、土壤炭素・窒素の大きな移動をもたらす」
- 堀匡寛・小野行徳(電子工学研究所)「シリコン・トランジスタ上で電子正孔共存系の形成に成功」

- 飯尾淳弘(農学部)「森林限界と南限地のダケカンバ苗木の生存率・成長率の低下はメカニズムが異なる」
- 川原崎知洋(教育学部)「駿河竹千筋細工のクリスマスオーナメントを開発!」
- ルグラン ジュリアン(理学部)「恐竜全身骨格カムイサウルス(むかわ竜)共産の白亜紀末期の被子植物花粉化石を発見」
- 竹内純(農学部)「光に安定で且つ植物体内で不活性化されにくいアブシシン酸アゴニストの開発」
- 大林龍胆(理学部)「警告物質が窒素利用を制御する作用点を解明」他1件発表
- 二又裕之(グリーン科学技術研究所)・田代陽介(工学部)「微生物群集の成り立ちを理解する新手法を開発」
- 松本和浩(農学部)「赤果肉リンゴ品種「紅の夢」に発生する斑点状障害の発生が有袋栽培で防止されるメカニズムを解明」
- 小野篤史(工学部)「金のナノ粒子でできた高色彩性カラーフィルムの開発に成功」



日本人学校の教員として
子どもたちに伝えたいこと

โรงเรียน สยามนิไทย-ญี่ปุ่น
泰日協会学校



やまもと し うん
山本 紫雲 さん

教育学部
学校教育教員養成課程
社会科教育専修 (2020年3月卒)

泰日協会学校 バンコク日本人学校 教諭

1998年生まれ、埼玉県立川越高等学校卒
趣味はランニング。
好きな言葉は「マイペンライ」。

教科の専門性を深められる静大へ

生まれ育ちは埼玉県ですが、静岡市は祖母が住んでいたため、昔から親しみがありました。大学進学の際に、愛着のある静岡で暮らしたいという気持ちや、社会科教育への専門性を深められる教育学部のある大学を目指したいと思い、静岡大学を選びました。在学中に小中高の教員免許を取得し、教育に関する視野を広げることができました。



研究室で大道芸ワールドカップのボランティアに参加

と繋がりの強かったカンチャナブリという町があり、小学校の修学旅行先として訪問しました。海外で暮らす子どもたちに、日本人として戦争を考える機会があればと思ったからです。研究室で友人と議論したことを子どもたちにも考えてもらったことは、とてもいい経験でした。

バンコク日本人学校で教えるやりがい

日本人学校は、さまざまな経歴を持つ先生と関わることができるので、常に新しい情報に触れ、知識がアップデートされていくのを感じます。卒業式の日に担任していた6年生の子から「バンコクに来てよかった」と声をかけてもらいました。自分が関わった地域に愛着をもち、大切にしてほしいという思いで子どもたちと接していたため、その言葉はとても嬉しかったです。



バンコクで暮らす日本人の子どもたちとの授業風景

大学時代の学校支援ボランティアがきっかけに

大学の講義の一環で参加した学校支援ボランティアで、授業の補助や事務作業に留まらず、授業参観や、休み時間に子どもたちと遊ぶ中で、小学校教員を志す気持ちが強くなりました。さらに教育実習を経て、在外教育施設で働いた経験のある先生方と出会い、海外での教育活動に興味を持ちました。日本人学校の仕事を選んだのもその先生方の助言があったからです。

戦争や平和について考える



戦時中に日本と繋がりがあったカンチャナブリでハーフマラソンに参加

研究室では、小学校で静岡市の空襲の授業をするなど、戦争や平和について考える機会が多く、意見交換を通じて多様な価値観に触れました。

タイには、戦時中に日本

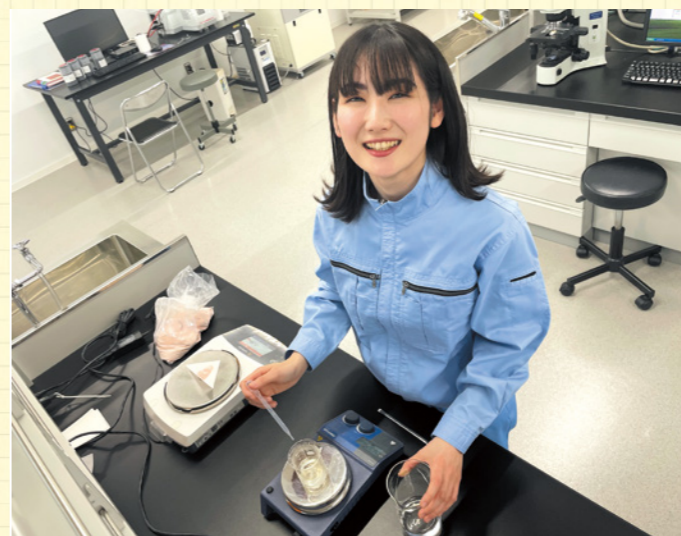
人との出会いや繋がりを大切にしてほしい

静岡を遠く離れて今、思うことは、自分にゆかりのある地域に愛着をもつことは、これからの生き方を考えるきっかけとなるということです。入学当初は、自分が海外で教員をすることなど、全く想像していませんでしたが、人との出会いが生き方を大きく変えました。学生の皆さん、人との出会いや繋がりを大切に、将来の目標の達成に励んでください！応援しています。



山本さんが学んだ教育学部について、くわしくはこちらから →

「なりたいたい自分になる」を
化粧品で応援したい



ちゅう まん
中馬 かれんさん

農学部
総合科学技術研究科農学専攻
(2021年3月卒)

アサマコーポレーション株式会社 勤務
(化粧品研究開発職)

1995年生まれ、鹿児島県立鶴丸高等学校卒
趣味は旅行・美味しいものを食べる・化粧品。
好きな言葉は「ピンチは最大のチャンス」。

化粧品の研究開発職を目指して農学部へ

美容部員をしていた母の影響で、高校生の頃から化粧品の研究開発職に就きたいと思っていました。静岡大学農学部は、自然豊かな地域性を活かした植物化学に関する研究が豊富で、私が学びたいと思っていた有機化学や生物、生化学の知識を余すことなく学ぶことができました。現在、関東で仕事をしていて、静岡の自然環境や学びたい知識をすべて叶えられた経験の貴重さを実感しています。

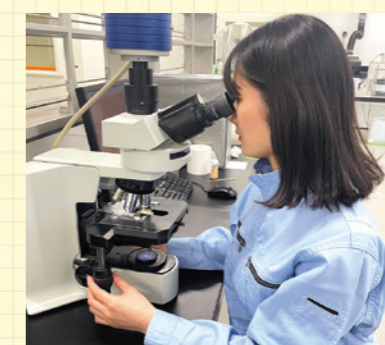
研究テーマはバラの香り、 農学祭の企画にも参画 化学や生物の知識の理解も深まる

在学中は有機化学や生物工学、生化学の授業を専攻し、植物化学研究室でバラの香りをテーマに研究しました。基本的な化学や生物の知識は、現在も化粧品の処方設計に必要な原料選定や皮膚科学への理解につながっており、論理立てて研究を進めていく力も研究開発職に活かされています。また、農学祭実行委員会に所属し、模擬店の出店や新入生のオリエンテーションの準備をしました。その経験で培った計画力やコミュニケーション力は、現在も社内外でのやりとりに活かされています。



農学祭で模擬店を出店し、大盛況でした！

化粧品開発で自信と夢を与えたい



乳化系のファンデーションを開発しております。乳粒子を観察中

化粧品は使っている人に自信と夢を与えます。自分が作製した化粧品で少しでも誰かの「なりたいたい自分」になる一端を担いたいと思い、この職を選びました。顧客要望に沿った化粧品の処方を開発できた時や、自分が携わった化粧品が市場で発売された時にやりがいを感じます。今後は日中もスキンケアをしていると思えるようなベースメイク製品の開発に挑戦し、スキンケアとベースメイクをより密接につなげていきたいと考えています。

学生の皆さん、視野を広げる経験を大切に！

在学中は、自分がどんな職に就きたいか、何を学びたいのかを焦って決める必要はありません。静大農学部、大学院農学専攻では多岐にわたる専門分野を学ぶことができ、将来の選択肢を広げることができます。化粧品以外にも、食品や農業などの研究職や企画・マーケティング職に挑戦することもできます。大切なのは、将来の選択肢を広げるよう、常に意識して過ごすこと。授業で学ぶだけでなく、旅行で知らなかった景色をみたり、資格に挑戦してみたり、さまざまな経験を通して視野を広げてください。



おいしいものを食べることが好きです！

中馬さんが学んだ農学部、総合科学技術研究科農学専攻について、くわしくはこちらから (左) 農学部 (右) 総合科学技術研究科農学専攻 →



見つけた! 輝く静大生

部活動、研究、地域との連携...

静岡大学にはそれぞれの場所で挑戦を続ける学生がたくさんいます。
そんな『輝く静大生』を一挙ご紹介いたします。



硬式野球部
佐藤 啓介選手
広島東洋カープから
ドラフト指名!

2023年10月26日、プロ野球ドラフト会議で
佐藤啓介選手(地域創造学環)が
広島東洋カープから育成2位で指名されました。
本学からは2人目のプロ野球選手誕生となります。

佐藤 啓介 (さとう けいすけ)
地域創造学環 地域サステナビリティコース
出身高校 中京大学附属中京高等学校(愛知県)
ポジション 内野手 右投げ左打ち
身長 181cm 体重 92kg
走攻守の三拍子そろった内野手として活躍。
広角に強い打球を打てること、元気よくガッツあふれるプレーが持ち味。



フィールドワークで地域資源を活かす取組を研究しました



野球部のチームメイトからの祝福



広島東洋カープからの指名挨拶

考え方や心が成長した静大の4年間

大学4年間で成長したと感じる部分はたくさんありますが、1番は考え方や心の部分で大きく成長できたと感じています。
大学4年間の活動を通じて、自分自身のことを理解できるようになり、身近なところにある幸せをたくさん感じられるようになりました。

仲間がっついてくれた最終打席で、最高のスイングができた!

大学4年間で1番思い出に残るのは、4年秋のリーグ戦の最終打席です。
チームメイトが自分のために必死につないでくれたおかげで打席に立つことができ、大学野球生活の中で1番のスイングをすることができました。
その時の気持ちを言葉で表すことは難しいですが、今まで感じたことのないような幸せを感じました。

授業を通じて多角的に物事を捉える力を養いました

まちおこしや地域活性化について学んでいました。
フィールドワークや卒業論文の制作を通じて、
地域が抱える問題を、多角的な視点で
観測したうえで対処していく方法を学ぶことができました。

まずは支配下選手になって、1軍の舞台で活躍したい

自分らしく明るく楽しく頑張ります!
静岡で試合をするときは球場まで応援に来てください!



日本・ASEAN・台湾の関係を考える 国際的學生交流プログラム プレゼンコンテストで優勝!



松岡大輝さん(地域創造学環2年)がリーダーを務めるチームが「日本ASEAN台湾次世代交流フォーラム」のアイデアプレゼンコンテストで優勝!このフォーラムはアジア地域に出身ルーツを持つ若者が今後のビジョンや社会課題について議論し、相互理解を深めるもの。松岡さんらは「脱炭素」をテーマにアジア諸国を繋ぐパワーグリッドの必要性を提言しました。その後セブ島で行われたアジア地方議員フォーラム(ACF)で日本代表としてプレゼンし「外国の政治家にも通じる政策提言で大いに自信を持ってほしい」との講評を得ました。



松岡さんチームのプレゼン資料

松崎町を舞台にみんなでひとつの作品を! 町を愛する人で作った 映画「BENBEN」制作中!



松崎町等と連携し持続可能な地域づくりを進める「2030松崎プロジェクト」の一環で、地域の魅力を発信する短編映画「BENBEN」の撮影が進行中!松崎町出身の偉人で北海道十勝平野開拓に貢献した「依田勉三」を題材にした作品で、本学学生たちが脚本作りや監督を務め、松崎高生をはじめとした地域内外の人たちみんなで作りあげました。映画の公開については、2030松崎プロジェクトブログで詳細をお知らせします。ぜひ映画を見て、松崎町の魅力を発見してください!



ブログ

かるた部、舞台はC級へ! 全国職域学生かるた大会 D級で優勝を勝ち取る!

かるた部が全国職域学生かるた大会D級で優勝!同時にC級への昇格を決めました。競技かるたは「量の上のスポーツ」とも呼ばれ、文化系の側面と体育会系の側面を兼ね備えた競技。来期も良い結果を残せるよう部員一同頑張ります。かるた部は、静岡・浜松両キャンパスにて活動しています。興味がある方はぜひ見学にお越しください!

かるた部
公式Xは
コチラ!



静岡 浜松

創部80年以上もの長い歴史を持つ 漕艇部 インカレへ2年連続出場!



漕艇部は今期も静岡県、中部地区の大会で活躍。インカレ(全日本大学ローイング選手権大会)には2年連続出場し、男子ダブルスカルでは、奥村春樹さん(工学専攻1年:写真左)、大黒佑太郎さん(工学部3年)が総合14位と健闘。来期もインカレに向けて精進していきます!漕艇部公式Xも随時更新中!



中部学生選手権大会 女子ダブルスカルで第2位を獲得した高見理瑛さん(工学専攻1年:写真左)、栗田光花理さん(工学部3年)



漕艇部公式X

情報アクセス技術のコンペを通じ評価 国際会議のタスクで首位! ダブル受賞の快挙!



仲田明良さん(情報学部4年/狩野芳伸研究室:写真右から2番目)が、情報アクセス技術向上に向けて議論する国際会議NTCIR-17のQA Lab for Political Information-4 Stance Classification subtaskで首位の性能を達成!同時にその発表において、Best Oral Presentation AwardとBest Poster Presentation Award をダブル受賞しました。NTCIRは、情報アクセス技術に関する大規模な評価基盤を国内外の多数の研究者が共有し、関連技術のコンペを通じて検証・比較評価する国際プロジェクトです。

人文社会科学部言語文化学科 大原研究室

私たち研究室は、日本に留まらないヨーロッパを中心とした国際的視点からの比較文化を研究しています。目まぐるしく変化するグローバルな社会と文化に対して、宗教、ジェンダー、表象、アダプテーション、発酵を軸にした文理融合研究など様々な視点から柔軟に理解し、異なる価値観を持つ人々との相互理解や共生を目指します。



学部生：24名 修士課程：1名



大原志麻 教授

研究室では既存の研究方法に縛られない、学生一人一人が関心を持ったテーマを尊重して研究しています。私は論文の作法について指導しますが、ゼミメンバー間でサポートし合いながらそれぞれの課題に取り組みます。毎年人数が多く賑やかで横からの学びが多いです。

公開シンポジウムをやっています！

地域の皆さんに発酵という微生物の働きがどのような社会や文化を形成し、そして発酵飲料を中心とした共食によりどのようなコミュニティ形成が可能かについてシンポジウムを隔月で開催しています。



学外に飛び出して活動しています！

大村屋酒造で留学生と一緒に純米大吟醸「静大育ち」の仕込み作業に参加するなど、様々なフィールドワークを行っています。スペイン、スロバキア、カナダなどにも海外留学し、比較文化を研究しています。



現在販売を終了していますが、今後の展開に乞うご期待！



家康公CRAFT

大原教授が所長を務める「発酵とサステナブルな地域社会研究所」が開発担当し、家康公にゆかりのある歴史拠点から採取した野生酵母を使ったクラフトビール「家康公CRAFT」を製造しました。

2023年5月に販売し、10月に再販売となるなど、大きな注目を浴びています。クラフトビールを醸造・販売する産官学共同のプロジェクトとして始まり、大原研究室の学生たちもビールのラベルのデザイン作成や、シンポジウムに参加するなど、アクティブに活動しています。

静大にヤチヤナギを植樹

中世ヨーロッパのビール醸造に欠かせない絶滅危惧植物ヤチヤナギの幼木を人文社会科学部棟裏の広場に植樹しました。

生育の経過を観察しながら株を増やし、ビール醸造の材料として活用することを目指しています。



静岡でヤチヤナギの利活用に取り組んでいます

こんなビールを作っています！

完成した家康公CRAFTを醸造所で試飲しました



中世グレートビールの復刻

中世ヨーロッパで愛飲されていた「グレートビール」は、香り付けとしてホップではなく、複数のハーブの集合体「グレート」を使うのが特徴です。国内外の文献を基に検証し、タイム、ローズマリーなど8種類を混合し、グレートビールを再現しました。



原書講読で翻訳し16世紀のレシピを再現しました



こんな研究 やっています！

ヨーロッパ文化

ヨーロッパを中心に様々な国や地域の言語や文化などを文学的な観点から研究しています。文学といっても小説だけではなく、映画やアニメ、漫画なども取りあげています。



表象

特定の動植物(うさぎ、狐、薔薇など)やモノ(鏡など)に着目し、それらがどのようなイメージを持たれてきたのか、それぞれの文化においてどのような役割を果たしてきたのかを研究しています。



アダプテーション

一つの作品について小説、映画、演劇といった様々な手法で表現されていく際にどのような違いが生じるかを分析する研究です。例えば「シンデレラ」という作品は、絵本、アニメ、実写映画といった様々な手法で描かれてきましたが、それぞれの特色や相違点、共通点を研究しています。

宗教文化

私たちの研究室では、キリスト教やイスラム教、アミニズムといった様々な宗教を取りあげています。中でも四国遍路やサンティアゴデコンポステラというキリスト教の聖地巡礼という巡礼文化に着目しています。

食文化

ヨーロッパやアジアなどの食文化も研究しています。中でもビールやワイン、キムジャンといった発酵食を扱うことが多いです。文献資料に基づいて中世ヨーロッパのワインを再現したこともあります。





Vol.6

静岡とベトナムをつなぐ架け橋になりたい

ダオ フォン ザン(ベトナム出身)
人文社会科学部経済学科(2023年卒業)
2024年4月より株式会社静岡銀行 勤務



静岡県観光のモニターツアーでカニを頬張るザンさん

小さい頃から日本とベトナムの両国の発展につながる事業を展開するビジネスマンに憧れていました。ABPプログラムに魅力を感じ、静岡大学への進学を決めました。

在学中には、地方財政論ゼミで「浜松市と伊東市を事例に市民主体の防災まちづくり」をテーマに共同論文を執筆しました。文献だけでなく、現地に足を運び、ヒアリング調査を実施するなど、学んだことを実際に自分で確かめることの大切さを学びました。



大好きなフォー(鶏肉のフォー)

ABPプログラムでは、他国の学生と共に学び、多様な文化や価値観に触れて、グローバルな人材として異文化理解力や協調性を鍛えることができました。

4月から静岡県の地方銀行に勤めています。自分のスキルを磨き、静岡県を財政面で支える存在を目指すだけでなく、静岡県とベトナムをつなぐ銀行員になりたいです。



着物の着付けも経験し、卒業式に袴姿で参加しました



アジアブリッジプログラム(ABP)は、静岡県とアジア諸国の架け橋として活躍する人材を育成するため、企業や自治体と連携して、静岡大学で学ぶ留学生を応援しています。ご支援いただいている企業の皆様への感謝を込めて、活動をご報告します。



静岡大学では、持続可能な社会の実現を目指し、社会課題に多面的・戦略的にアプローチしています。今回は、プラスチックのリサイクルに貢献する新技術をご紹介します。

廃プラスチックのリサイクルを推進 ～テラヘルツ波を用いた高度識別装置を開発～

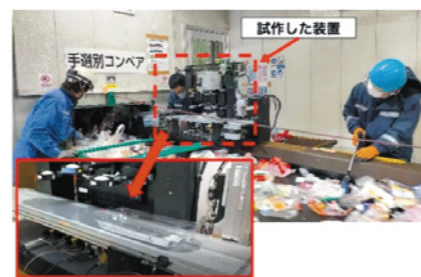
大学院光医学研究科 佐々木哲朗 教授

近年、マイクロプラスチックによる海洋汚染問題やレジ袋、ストローなどの使い捨て用品の増加など、世界各国で廃プラスチック問題が注目されています。循環経済や脱炭素の実現のためには、廃プラの素材を正確に識別・選別し、再生資源として有効利用することが必要です。

そこで、高品質の再生資源に生まれ変わらせる新技術として、テラヘルツ波を用いた高度識別装置を開発しました。テラヘルツ周波数帯における透過率/反射率の違いから素材や添加剤の分類に基づく分別ができます。廃プラの素材ごとの選別精度が上がることによって、高度なリサイクルが実現可能となります。今後も社会実証実験を進め、識別装置の一般普及を図り、プラスチックリサイクル率の向上に貢献していきます。



廃プラスチック識別装置



プラスチック製容器包装の識別実験

Shizudai Mini News



表彰式で研究室の活動を報告した新久保祥さん(左)、加藤亜実咲さん(中央)、渡辺美空さん

教育学部 藤井基貴研究室が「ぼうさい大賞」を受賞!

優れた防災教育を行う団体等を表彰する「1.17 防災未来賞(ぼうさい甲子園)」(人と防災未来センター主催)で、教育学部 藤井基貴研究室が「ぼうさい大賞」を受賞しました。同研究室では、幼児から高齢者までを対象に、「脅さない防災」「考える防災」「伝える防災」を柱とした活動を、先輩から後輩へと受け継ぎながら、国内外で行っています。

2023年、最も力を入れたのは、高校生を防災教育の担い手として育成する「日本の若者をBOSAIの世界へ:防災×IT」プロジェクトです。静岡県内外の8校から2,000名を超える高校生が参加し、デジタルワークブックの制作・配布、動画配信やSNSによる遠隔指導の仕組みの構築に取り組みました。

また、地元企業と学校・家庭向け防災総合アプリ「クロスゼロ」「防災検定ソナクエ」を共同開発したほか、海外の言語に翻訳した子ども向けの防災紙芝居を新たにペルー・フィンランドに提供しました。現地の防災教育に活用されています。



学校で活用されているクロスゼロ

国際会議「インターアカデミア2023」開催 13か国108名が浜松キャンパスに集う



本学は中東欧の多くの主要大学と大学間交流協定を締結して学術交流や学生交流を進めています。“A global brain-networkの構築”というコンセプトのもと、2002年から毎年、協定大学が交代で幹事大学を務める形式で国際会議「インターアカデミア」を開催しています。

20回目となる2023年度は9月27日から29日の3日間、8年ぶりに本学が主催校として開催し、13か国108名が来場、9か国37名がオンラインで参加しました。会議では工学分野を中心とした研究発表や学外でのエクスカージョンのほか、各大学で進める教育・研究の情報交換が活発に行われました。今後もさらなる交流により大学間の国際活動のシナジー効果が期待されます。

おめでとう! 「しずっぴー」生誕20周年

キャンパスキャラクター「しずっぴー」がデビューして今年で20周年を迎えました!2004年3月、より親しみやすい大学への思いから、富士山を抱く静岡県と学びの拠点をイメージした無名のキャラクターとして本学ウェブサイトが登場。翌年、221点もの応募の中から「しずっぴー」と名付けられました。大学祭などのイベントや広報物などで本学を盛り上げてくれています。静岡大学生協で購入できるグッズもあります!今後も精力的に活動を続けるしずっぴー。皆さん応援をお願いします!



いつも図書館にいるよ。会いに来てね!



校友会組織「静岡大学 ゆかりの会」入会のご案内

在学生・保護者をはじめ、卒業生・企業など静岡大学と「縁(ゆかり)」のある方をつなぐ協力・応援ネットワークです。会員同士もつなぎ、未来創成の輪を広げていきます。

- 対象** どなたでも入会できます。
- 活動内容** 静岡大学内の最新情報を集約し、メールマガジンで配信します。
 - 最新の研究成果
 - 企業や地域との連携
 - 学生や教職員の活躍
 - セミナーやイベントのご案内

会員募集中!

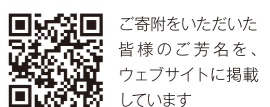


会員登録はこちらから(メールマガジン登録)



今後とも温かいご支援をお願いいたします
未来創成基金へのご寄附は、郵便振替やインターネットからのお申込み(クレジットカード・コンビニ決済等)をご利用いただけます。くわしくはウェブサイトをご覧ください。

静岡大学未来創成基金ウェブサイト
https://kikin.adb.shizuoka.ac.jp/
静岡大学広報・基金課 基金係
電話:054-238-5183 E-mail:kikin@adb.shizuoka.ac.jp



ご寄附をいただいた皆様のご芳名を、ウェブサイトに掲載しています